

2 月 度 例 会 山 行 報 告 書		報告者	神戸	参加 メンバー	CL(全体):愛知岳連指導 委員長木田氏 参加: 神戸 各社含め合計十数人
		報告日	3/10		
山 域	奥美濃	山行日	15年 2月 28日(土) - 3月 1日(日)		
山 名	大日岳				

山行目的	愛知県山岳連盟 雪山講習会	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	---------------	--------------------

配布先	ルート図 (地図を見て正確に)
集会:12	
山行: 1	
リーダー	
原紙: 集会担当者	



2.5 万分の 1 地図: 石徹白、ニノ峰

2/28 晴  
 4:00 自宅発 6:30 着  
 9:00 リフト最高地点 (開会式)  
 グループビーコンテスト  
 10:00 テント設営  
 雪上歩行、滑落停止訓練  
 14:00 大日岳  
 埋没体験  
 16:00-50 雪洞堀  
 雪洞泊  
 3/1 雪  
 8:00 ビーコン訓練  
 10:00 弱層テスト  
 11:00 搬送方法  
 13:00 解散



グループビーコンテスト



大日岳頂上でシェルタ掘り

〈山行報告〉(1)「2/17 低体温症勉強会」(座学)で学んだのでまとめる。登山では雪山に限らず一年中低体温症の環境にある。体をゆすったり、さすったりしてはいけない。冷たい血液を心臓に送ることになり、死に至らしめる。アフタードロップ(意識が戻った後に再度意識無くす。血圧低下、最悪心停止する。)は必ず起きる。それでも丁寧に搬送優先。 復温方法: ①食べる>暖かい飲み物より優先 ②隔離(風・濡れ・冷たいモノ{雪・岩}から断熱マット等で) ③保温(シュラフ・ツェルト等で包む) ④加温(プラティパスに熱湯を入れ、体の中央、胸・腹部を。脇や鼠径部ではなく。また人肌では人は温まらない。) (2)「2/28. 3/1 雪山講習」を受講して。今回は中級の実践ではなく指導という観点で勉強の為、初級を受講した。(実際自分は初級だが) 豊橋山岳会 N 氏の長い登山歴に裏打ちされたご指導を受けて感謝の一言である。やはり 1 回 2 回ではなく、継続して練習することが大切だと感じた。一方 N 氏が常に勉強して新しい技術を学んでください。とおっしゃったことが印象深かった。二日目のビーコン訓練ではいかにビーコンだけで場所を探索するのが難しいかを体験。プローブ(ゾンデ棒)との併用で訓練が重要と再認識。また弱層テストでは 1.5m 以上掘るということで、雪の性質の違う場所で滑りやすいと学ぶ。またコンプレッションテストで、初めてスノーソーの使い道を理解した。共通のやり方をする事で他のグループとの情報交換できると聞き、なるほどと納得した。

他には豊川山岳会の若手が大勢参加されていて、楽しい講習になった。



弱層テスト(掘るのに 15 分)

確認 (リーダー)	神戸
作成 (報告者)	神戸
	神戸

〈リーダー所見〉(1) 2011 春の低体温症遭難者を目の当たりにしたので、如何に素人が対処するかではなく、如何にそうならないかを考えると、やはり雨や汗で濡れたままにしないことが自分の場合重要だと思った。(2)私自身、初の雪洞泊が新鮮でしたが、朝ご飯の為に早めに撤収した時、横の雪洞の方に一声掛けなかったので、中騒ぎになっていたと聞き、声かけしなかったことに反省する。